

令和2年度第3四半期  
經過的長期給付組合積立金 運用狀況

## 目 次

1	令和2年度 運用実績概要（第3四半期）	2
2	令和2年度 市場環境	3
3	令和2年度 資産構成割合	5
4	令和2年度 運用利回り	6
	（参考）令和元年度 運用利回り	7
5	令和2年度 運用収入の額	8
	（参考）令和元年度 運用収入の額	9
6	令和2年度 資産の額	10
	（参考）令和元年度 資産の額	11
7	令和2年度 共済独自資産の状況	12
	（参考）令和元年度 共済独自資産の状況	13
8	資金運用に係る用語の解説	14



# 1 令和2年度 運用実績概要 (第3四半期)

運用収益額	+ 8 2 3 億円	※総合収益額
	+ 9 4 億円	※実現収益額
運用利回り	+ 5 . 8 3 %	※修正総合収益率
	+ 0 . 7 9 %	※実現収益率
運用資産残高	1 兆 4 , 8 0 2 億円	※時価総額

※ 年金積立金は長期的な運用を行うものであり、その運用状況も長期的に判断することが必要ですが、運用に対する組合員等の理解を促進するため、また、情報公開による透明性確保の観点から、四半期ごとに運用状況の公表を行うものです。

総合収益額は、各期末時点での時価に基づく評価であるため、評価損益を含んでおり、市場の動向によって変化するものであることに留意が必要です。

(注1) 収益額及び収益率は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。

(注2) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。



## 2 令和2年度 市場環境①

【各市場の動き：令和2年10月～令和2年12月】

国内債券：10年国債利回りは、横ばいとなりました。

10月は米国長期金利の上昇につられ、国内債券利回りは上昇しました。しかし11月以降は新型コロナウイルスが再拡大したことや各国の金融緩和長期化への期待が強まったことで金利は低下し、結果として第3四半期全体では横ばいとなりました。

国内株式：国内株式市場は、上昇しました。

10月は新型コロナウイルス感染状況の動向により上下はあるものの底堅い動きとなりましたが、11月以降は、米大統領選の不透明感が払拭されたことやワクチン開発の進展から大幅に上昇しました。

外国債券：10年国債利回りは、米国は上昇、ドイツは若干低下しました。

米国では追加経済対策のための国債発行を懸念する見方から金利が上昇した一方、欧州では新型コロナウイルス感染再拡大への懸念から金利は低下しました。

外国株式：外国株式市場は、米国、ドイツともに上昇しました。

F R Bが金融緩和政策の長期化を示唆したことなどから、投資資金が成長企業に集中し、ハイテク株を中心に上昇しました。11月に入り、米国では大統領選挙を無事に消化したことや上院で共和党が過半数の議席を得る見込みとなったこと、また新型コロナウイルスに対して有効なワクチンの開発が進んだことが追い風となり、NYダウ及びNASDAQはともに最高値を更新するなど上昇相場が続きました。

### ベンチマーク収益率

		令和2年度
国内債券	NOMURA-BPI総合	-0.32%
国内株式	TOPIX:配当込	30.09%
外国債券	WGBI:除日本 ヘッジなし	4.12%
	WGBI:除日本 ヘッジあり	2.02%
外国株式	MSCI ACWI:除日本 配当込	42.70%

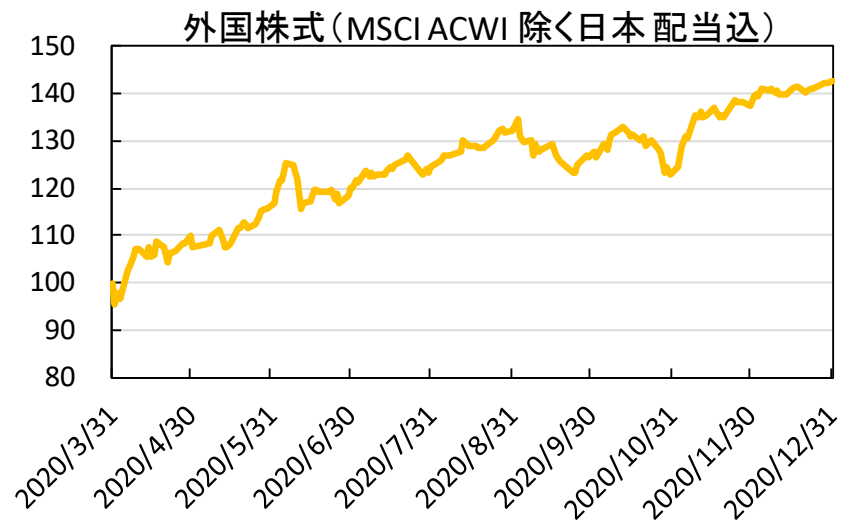
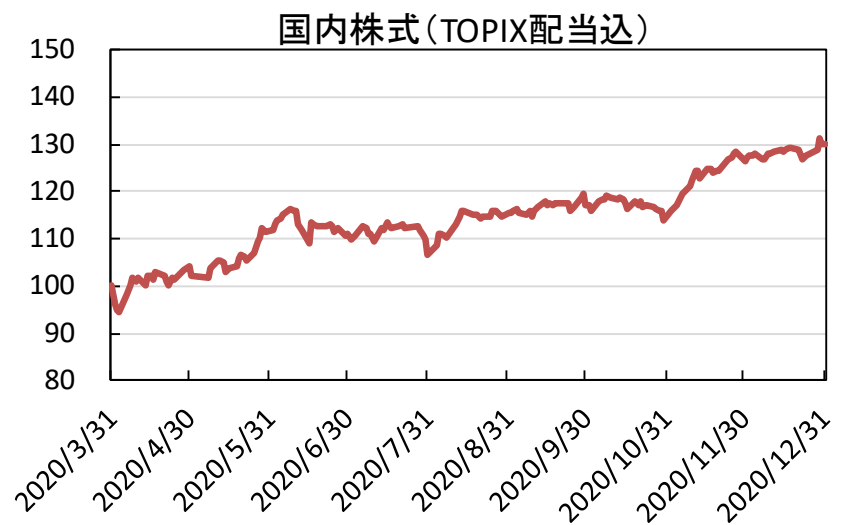
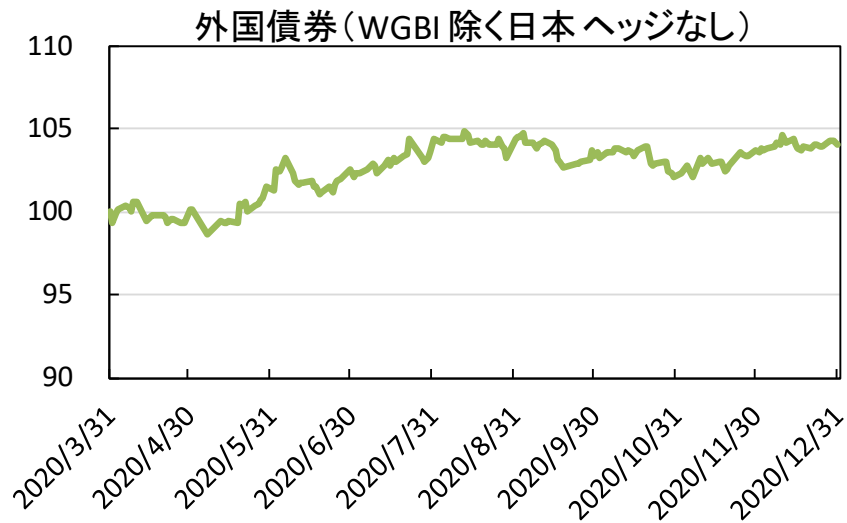
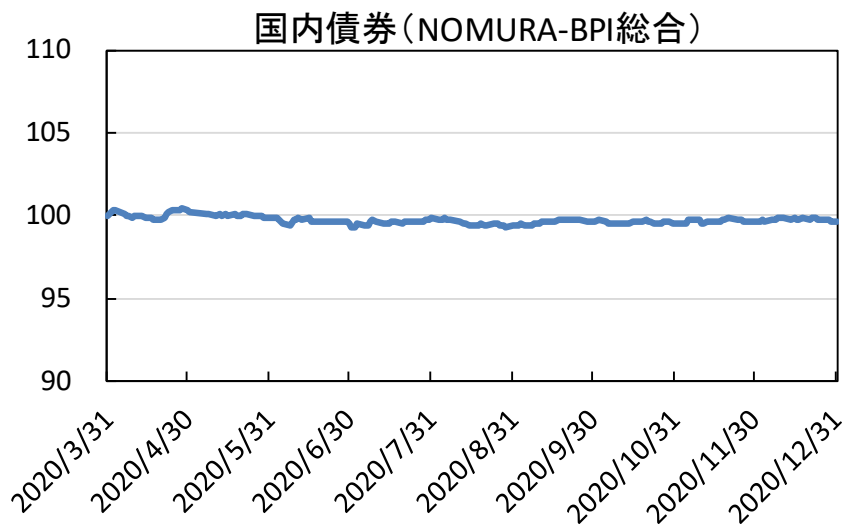
### 参考指標

		令和2年9月末	令和2年10月末	令和2年11月末	令和2年12月末
国内債券	10年国債利回り(%)	0.02	0.04	0.03	0.02
国内株式	TOPIX配当なし(ポイント)	1,625.49	1,579.33	1,754.92	1,804.68
	日経平均株価(円)	23,185.12	22,977.13	26,433.62	27,444.17
外国債券	米国10年国債利回り(%)	0.68	0.86	0.84	0.91
	ドイツ10年国債利回り(%)	-0.52	-0.62	-0.57	-0.58
外国株式	NYダウ(ドル)	27,781.70	26,501.60	29,638.64	30,606.48
	独DAX(ポイント)	12,760.73	11,556.48	13,291.16	13,718.78
外国為替	ドル/円(円)	105.45	104.64	104.27	103.24
	ユーロ/円(円)	123.56	121.88	124.39	126.16



## 2 令和2年度 市場環境②

【ベンチマークインデックスの推移：令和2年4月～令和2年12月（令和2年3月末=100）】



### 3 令和2年度 資産構成割合

積立金全体の資産ごとの構成割合は次のとおりです。

(単位：%)

	令和元年度	令和2年度			
	年度末	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	年度末
国内債券	43.0	35.8	29.8	27.4	—
短期資産	0.2	0.1	0.4	0.1	—
国内株式	19.7	20.8	22.8	24.3	—
外国債券	16.3	19.5	22.7	21.9	—
外国株式	21.0	23.9	24.7	26.5	—
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	—

(注1) 基本ポートフォリオは、国内債券25% (±10%)、国内株式25% (±12%)、外国債券25% (±9%)、外国株式25% (±11%)です。括弧内は許容乖離幅を表しています。

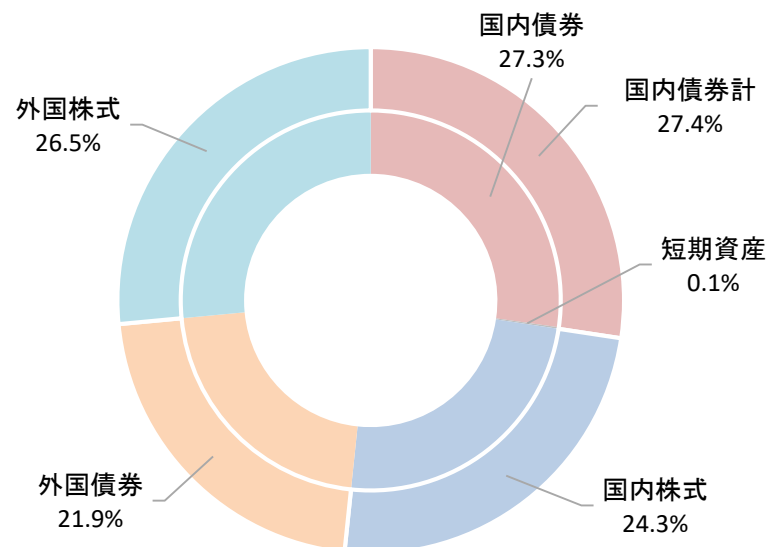
(注2) ヘッジ付き外貨建て債券は、国内債券に含めています。

(注3) 数値を四捨五入しているため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

(注4) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

(注5) 表中の短期資産は決済用資金及び自家運用の短期資産を表し、今年度より国内債券に含めています。なお、委託運用の各ファンドで保有する短期資産は、原則として該当する資産区分に計上しています。

第3四半期末 運用資産別の構成割合



(参考) 国内債券 (短期資金を除く) の内訳

	令和2年度第3半期	
	資産額 (億円)	構成割合 (%)
債券	3,396	22.9%
団体生存保険	576	3.9%
投資不動産	62	0.4%



## 4 令和2年度 運用利回り

第3四半期の実現収益率0.79%となり、修正総合収益率（期間収益率）は5.83%となりました。

### 資産全体の収益率

(単位：%)

	令和2年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益率	0.37	1.07	0.79	—	2.22
修正総合収益率	6.75	2.64	5.83	—	15.91

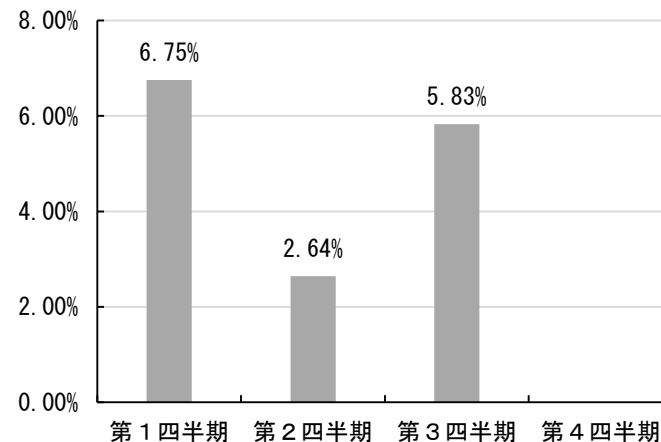
### 資産別の修正総合収益率

(単位：%)

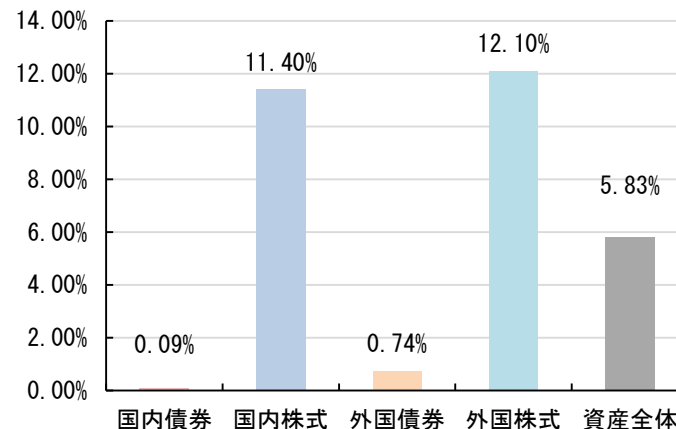
	令和2年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
国内債券	▲0.34	0.21	0.09	—	▲0.10
短期資産	0.00	0.00	0.00	—	0.00
国内株式	11.28	5.05	11.40	—	30.31
外国債券	2.63	0.61	0.74	—	3.73
外国株式	19.90	5.75	12.10	—	41.95

- (注1) 各四半期及び年度計は、期間収益率です。  
 (注2) 収益率は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。  
 (注3) 修正総合収益率は、実現収益率に時価評価による評価損益の増減を加味したものです。  
 (注4) ヘッジ付き外貨建て債券、投資不動産及び団体生存保険は、国内債券に含めています。  
 (注5) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。  
 (注6) 表中の短期資産は、決済用資金及び自家運用の短期資産を表し、今年度より国内債券に含めています。なお、委託運用の各ファンドで保有する短期資産は、原則として該当する資産区分に計上しています。

### 資産全体の修正総合収益率



### 当該四半期の資産別の修正総合収益率



## (参考) 令和元年度 運用利回り

### 資産全体の収益率

(単位：%)

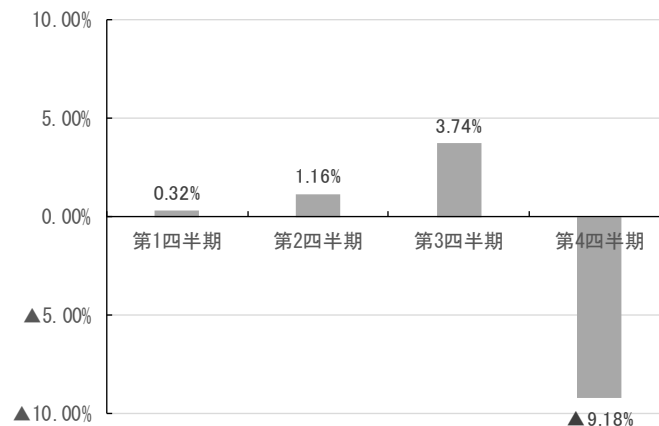
	令和元年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益率	0.73	0.77	0.65	0.63	2.79
修正総合収益率	0.32	1.16	3.74	▲9.18	▲4.25

### 資産別の修正総合収益率

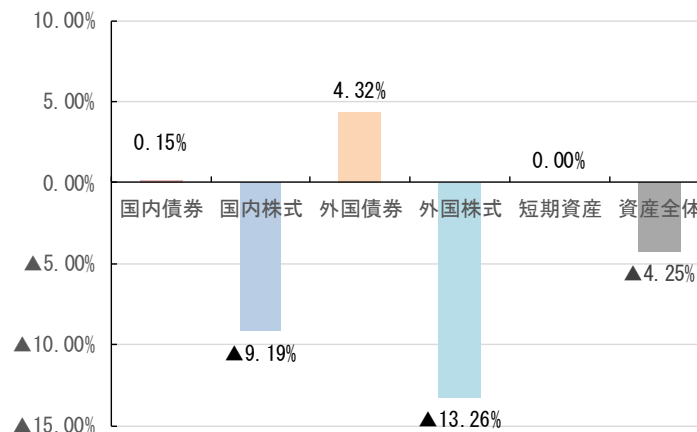
	令和元年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
国内債券	0.97	0.42	▲0.92	▲0.36	0.15
国内株式	▲2.17	3.54	8.72	▲17.58	▲9.19
外国債券	0.75	1.44	0.58	1.50	4.32
外国株式	1.06	0.31	9.74	▲22.21	▲13.26
短期資産	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

- (注1) 各四半期及び年度計は、期間収益率です。  
 (注2) 収益率は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。  
 (注3) 修正総合収益率は、実現収益率に時価評価による評価損益の増減を加味したものです。  
 (注4) ヘッジ付き外貨建て債券、投資不動産及び団体生存保険は、国内債券に含めています。  
 (注5) 表中の短期資産は、決済用資金及び自家運用の短期資産を表します。なお、委託運用の各ファンドで保有する短期資産は、原則として該当する資産区分に計上しています。

### 資産全体の修正総合収益率



### 資産別の修正総合収益率





## 5 令和2年度 運用収入の額

第3四半期の実現収益額は94億円となり、総合収益額は823億円となりました。

### 資産全体の収益額

(単位：億円)

	令和2年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益額	44	127	94	—	265
総合収益額	878	366	823	—	2,067

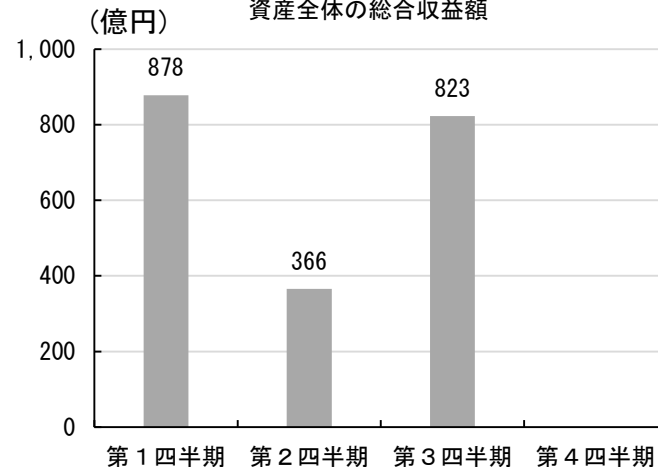
### 資産別の総合収益額

(単位：億円)

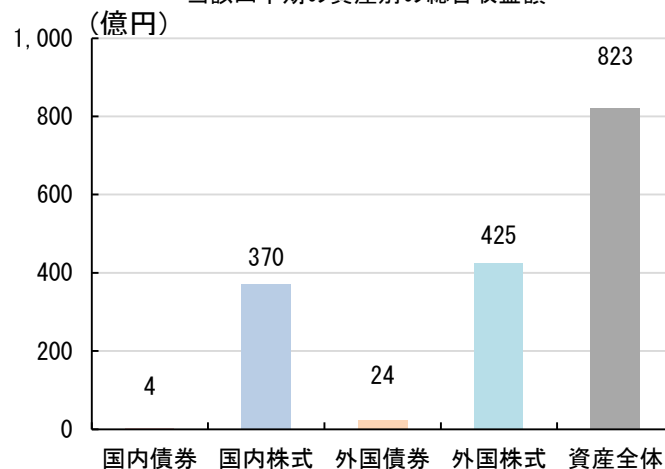
	令和2年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
国内債券	▲18	10	4	—	▲5
短期資産	0	0	0	—	0
国内株式	289	148	370	—	807
外国債券	59	17	24	—	100
外国株式	548	191	425	—	1,164

- (注1) 収益額は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。  
 (注2) 総合収益額は、実現収益額に時価評価による評価損益の増減を加味したものです。  
 (注3) ヘッジ付き外貨建て債券、投資不動産及び団体生存保険は、国内債券に含めています。  
 (注4) 数値を四捨五入しているため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。  
 (注5) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。  
 (注6) 表中の短期資産は決済用資金及び自家運用の短期資産を表し、今年度より国内債券に含めています。なお、委託運用の各ファンドで保有する短期資産は、原則として該当する資産区分に計上しています。

### 資産全体の総合収益額



### 当該四半期の資産別の総合収益額



## (参考)令和元年度 運用収入の額

### 資産全体の収益額

(単位：億円)

	令和元年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益額	88	93	79	76	337
総合収益額	45	163	528	▲1,333	▲597

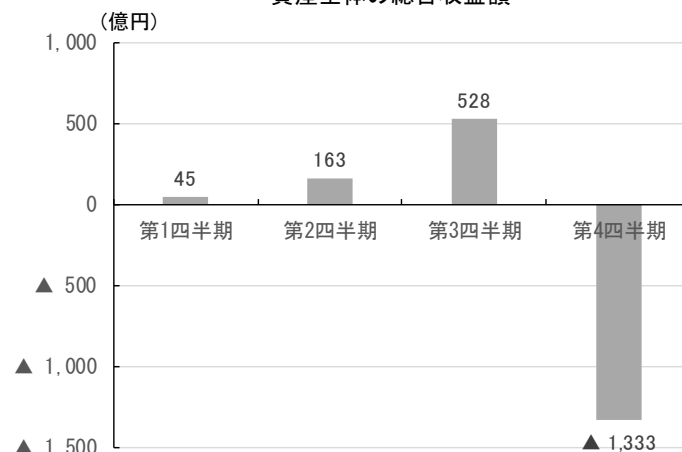
### 資産別の総合収益額

(単位：億円)

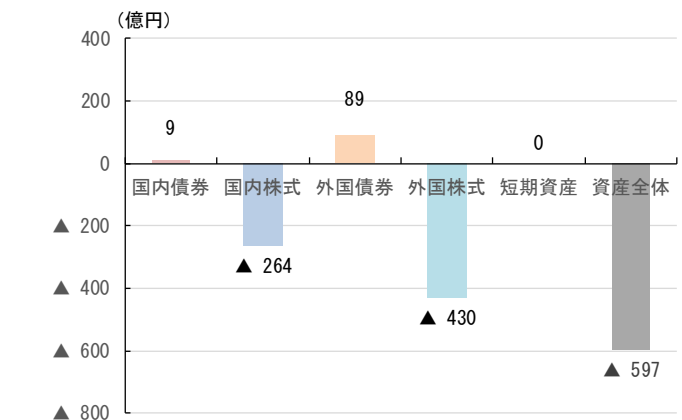
	令和元年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
国内債券	58	25	▲54	▲20	9
国内株式	▲62	99	254	▲554	▲264
外国債券	15	30	12	32	89
外国株式	34	10	316	▲790	▲430
短期資産	0	0	0	0	0

- (注1) 収益額は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。  
 (注2) 総合収益額は、実現収益額に時価評価による評価損益の増減を加味したものです。  
 (注3) ヘッジ付き外貨建て債券、投資不動産及び団体生存保険は、国内債券に含めています。  
 (注4) 数値を四捨五入しているため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。  
 (注5) 表中の短期資産は、決済用資金及び自家運用の短期資産を表します。なお、委託運用の各ファンドで保有する短期資産は、原則として該当する資産区分に計上しています。

### 資産全体の総合収益額



### 資産別の総合収益額



## 6 令和2年度 資産の額

(単位：億円)

	令和2年度											
	第1四半期末			第2四半期末			第3四半期末			年度末		
	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益
国内債券	4,796	4,956	160	4,091	4,213	122	3,939	4,054	115	—	—	—
短期資産	18	18	0	59	59	0	20	20	0	—	—	—
国内株式	2,306	2,874	568	2,512	3,222	710	2,571	3,592	1,021	—	—	—
外国債券	2,550	2,691	141	3,069	3,211	142	3,081	3,235	153	—	—	—
外国株式	2,273	3,306	1,032	2,307	3,496	1,189	2,339	3,921	1,582	—	—	—
合計	11,925	13,826	1,901	11,979	14,142	2,164	11,930	14,802	2,872	—	—	—

(注1) ヘッジ付き外貨建て債券は、国内債券に含めています。

(注2) 数値を四捨五入しているため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

(注3) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

(注4) 表中の短期資産は決済用資金及び自家運用の短期資産を表し、今年度より国内債券に含めています。なお、委託運用の各ファンドで保有する短期資産は、原則として該当する資産区分に計上しています。

(注5) 時価には、未収収益が含まれています。



## (参考) 令和元年度 資産の額

(単位：億円)

	令和元年度											
	第1四半期末			第2四半期末			第3四半期末			年度末		
	簿価	時価	評価 損益	簿価	時価	評価 損益	簿価	時価	評価 損益	簿価	時価	評価 損益
国内債券	5,630	5,954	324	5,569	5,888	319	5,464	5,720	256	5,401	5,612	211
国内株式	2,218	2,787	569	2,222	2,886	663	2,276	3,139	863	2,315	2,585	270
外国債券	2,005	2,059	54	2,013	2,088	75	2,027	2,100	73	2,054	2,132	78
外国株式	2,207	3,222	1,015	2,235	3,232	997	2,259	3,548	1,289	2,279	2,758	478
短期資産	16	16	0	62	62	0	14	14	0	24	24	0
合計	12,077	14,038	1,961	12,102	14,156	2,054	12,040	14,521	2,482	12,073	13,110	1,037

(注1) ヘッジ付き外貨建て債券、投資不動産及び団体生存保険は、リスク・リターンの特性により、国内債券に含めています。

(注2) 数値を四捨五入しているため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

(注3) 表中の短期資産は、決済用資金及び自家運用の短期資産を表します。なお、委託運用の各ファンドで保有する短期資産は、原則として該当する資産区分に計上しています。

(注4) 時価には、未収収益が含まれています。



## 7 令和2年度 共済独自資産の状況

修正総合収益率

(単位：%)

	令和2年度			
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	年度末
投資不動産	0.25	0.34	0.31	
団体生存保険	0.14	0.24	0.14	

総合収益額

(単位：億円)

	令和2年度			
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	年度末
投資不動産	0	0	0	
団体生存保険	1	1	1	

運用資産額

(単位：億円)

	令和2年度			
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	年度末
投資不動産	61	60	62	
団体生存保険	575	576	576	

(注) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。



## (参考) 令和元年度 共済独自資産の状況

修正総合収益率

(単位：%)

	令和元年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
投資不動産	0.37	0.44	0.33	0.37	1.53
団体生存保険	0.14	0.27	0.14	0.12	0.67

総合収益額

(単位：億円)

	令和元年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
投資不動産	1	1	0	0	2
団体生存保険	1	2	1	1	4

運用資産額

(単位：億円)

	令和元年度			
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	年度末
投資不動産	177	168	108	106
団体生存保険	572	572	573	574



## 8 資金運用に係る用語の解説

### ○ 基本ポートフォリオ

統計的な手法により定めた、最適と考えられる資産構成割合（時価ベース）です。

### ○ 許容乖離幅

資産構成比が基本ポートフォリオから乖離した場合には、資産の入替え等を行い乖離を解消することとなります。しかし、時価の変動等により小規模な乖離が生じるたびに入替えを行うことは、売買コストの面等から非効率であるため、基本ポートフォリオからの乖離を許容する範囲を定めており、これを許容乖離幅といいます。

### ○ 修正総合収益率

運用成果を測定する尺度の1つです。実現収益額に資産の時価評価による評価損益増減を加味し、時価に基づく収益を把握するための時価ベースの比率です。算出が比較的容易なことから、運用の効率性を表す時価ベースの資産価値の変化を把握する指標として用いられます。

（計算式）

$$\text{修正総合収益率} = (\text{売買損益} + \text{利息} \cdot \text{配当金収入} + \text{未収収益増減} + \text{評価損益増減}) \\ \div (\text{簿価平均残高} + \text{前期末未収収益} + \text{前期末評価損益})$$

### ○ 実現収益率

運用成果を測定する尺度の1つです。売買損益及び利息・配当金収入等の実現収益額を簿価平均残高で除した簿価ベースの比率です。

### ○ 総合収益額

実現収益額に加え資産の時価評価による評価損益を加味することにより、時価に基づく収益把握を行ったものです。

（計算式）  $\text{総合収益額} = \text{売買損益} + \text{利息} \cdot \text{配当金収入} + \text{未収収益増減} + \text{評価損益増減}$



○ ベンチマーク

運用成果を評価する際に、相対比較の対象となる基準指標のことをいい、市場の動きを代表する指数を使用しています。当組合で採用している各資産のベンチマークは以下のとおりです。

1 国内債券

NOMURA-BPI総合【野村證券が作成・発表している国内債券市場のベンチマークです。】

2 国内株式

TOPIX（配当込み）【東京証券取引所が作成・発表している国内株式のベンチマークです。】

3 外国債券

FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）  
【FTSE Fixed Income LLCが作成・公表している外国債券のベンチマークです。】

4 外国株式

MSCI ACWI（除く日本、円ベース、配当込み）【MSCI Incが作成する日本を除く先進国及び新興国で構成された株式のベンチマークです。】

○ ベンチマーク収益率

ベンチマークの騰落率。いわゆる市場平均収益率のことです。

